

1. 評価結果(概要表)

作成日 平成20年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0470201427		
法人名	(有)まごころデイサービスセンター		
事業所名	グループホーム 隠居の家		
所在地 (電話番号)	宮城県石巻市井内字三番113-2 (電話) 0225-92-7789		
評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	宮城県仙台市青葉区五橋2-12-2		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成20年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 専任5人兼任2人, 非常勤3人, 常勤換算5.4人	

(2) 建物概要

建物形態	<input type="checkbox"/> 併設/ <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input type="checkbox"/> 新築/ <input checked="" type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造り 2階建ての 2階 ~ 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円又は34,000円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円)	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有/ <input type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	又は1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月6日現在)

利用者人数	7 人	男性 0 人	女性 7 人
要介護1	1 人	要介護2	0 人
要介護3	3 人	要介護4	1 人
要介護5	2 人	要支援2	0 人
年齢	平均 87.6 歳	最低 82 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関人	高橋消化器内科 日本歯科診療所
---------	-----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR石巻線陸前稲井駅の近郊住宅地の一角に位置し、建物は民家を改装したもので家庭的な雰囲気を大切にしているホームである。法人代表者がホーム運営に積極的に関わっている。また、地域の方々との日常的なあいさつや交流を大切に、近隣の方や小学生を招いて出し物を披露していただくなどの取り組みもある。同法人が運営するデイサービスが近隣にあり、職員の交流や合同で行う行事も当ホームの特色である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について計画を作成し取り組みの検討がなされ、市町村との関わりや介護計画書の交付等改善に取り組みされている項目も見受けられるが、災害対策や栄養摂取状況の把握、鍵をかけない工夫、食事を楽しむ支援などについては未だ検討中や取り組みがなされていないところがある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	ホームの自己評価は職員一人ひとりが評価項目について考えたものをリーダーがまとめたもので、職員一人ひとりのケアの振り返りとして活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの活動内容を紹介し、運営に関することについて話し合いが行われている。また、災害時の連絡体制の確認や町内会活動について地域の方から情報提供いただく場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に一度はご家族に来訪していただくよう声がけを行い、来訪の際は入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理について報告し、意見聴取にも努めている。また、運営推進会議には家族の代表者が出席し、ホーム運営について意見等を表せる場となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の盆踊りや清掃活動、花壇の水遣りを行っている。また、近隣の方や小学生を招き、出し物を披露していただいたり、同法人が運営する近隣のデイサービスと合同で行う敬老会に地域の方を招待する等の交流がある。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取組を期待したい項目

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	何よりも家庭的であることを大切にしているというホーム独自の理念が代表者と職員によって作成されているが、年に一回の理念の検討がなされておらず、また地域との関係性の強化が理念として謳われていない。	○	地域密着型サービスの意義を考え、地域との関係性の強化をホームの理念等に取り入れるとともに、入居者やホームの変化に応じた理念の見直し、検討が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で理念を共有する機会を設けており、理念を実践する具体的な方策として「介護心得」や「言葉づかい」について話し合いが行われている。また、サービス提供場面において、家庭的な雰囲気を大切にされたケアが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的なあいさつや花壇の水遣りのほか、町内会の盆踊りや清掃活動に参加したり、近隣の方や小学生を招いて出し物を披露していただくなど、地元の人々との交流に努めている。また、同法人が運営する近隣のデイサービスと合同で行う敬老会に地域の方に参加してもらい取り組みも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員一人ひとりが評価項目について考えたものをリーダーがまとめたもので、外部評価を職員一人ひとりの振り返りとして活用している。また、前回の外部評価で見いだされた課題については、改善計画が作成されているが、未だ検討中や取り組みがなされていない項目も見受けられた。	○	前回の外部評価で見いだされた項目について改善計画が作成され取り組みの検討がなされているが、栄養摂取状況の把握や鍵をかけない工夫、食事を楽しむ支援などについても取り組んでいくことが求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者やご家族の代表の他、地域の区長、婦人部長、地域住民の方々にも出席していただき、ホームの活動内容や運営における課題、災害時の連絡体制、町内会活動についての意見交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村窓口へホーム便りを2カ月毎に提出し、ホームを理解支援してもらうような関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理について、来訪していただく家族へは頻りに報告がなされているが、来訪するのが困難な家族に対しては月1回程度の入居者の暮らしぶりの報告がなされていない。	○	なかなか面会に来れないご家族へも定期的に入居者の暮らしぶり等がわかるように手紙や写真を送付することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の機会を捉えて家族から意見聴取し、ケアの向上につなげている。また運営推進会議には家族も出席しており、ホームの運営について意見を表せる場が設けられている。外部の相談苦情窓口についての説明もなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えられているが、職員の異動による交代の際に利用者の心理的負担に配慮した、利用者への説明や対応の仕方等の引き継ぎの時間がとられていない。	○	利用者と職員とのなじみの関係を重視し、前任の職員と新任の職員の引継期間を設ける等、職員の交代による利用者の心理的負担の軽減に取り組むことが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は受講案内の内容をもとに検討し、可能な限り参加しているが、内部での研修が行われていない。	○	職員に必要な研修について段階的な学びの機会を確保し、研修計画を立てる等、職員を育成する取組みが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣のグループホームとの相互訪問を企画しているほか、石巻市主催のグループホーム情報交換会に参加し、実践的な交流が行われている。また同法人が運営するデイサービス職員との交流もある。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が会いに行ったり見学に来ていただくなどして、本人や家族と十分に話し合いながら、本人と家族にあった利用開始の調整が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	入居者の昔苦労した話や調理の場面で学ぶことも多く、人生の先輩から教えていただく姿勢や関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に一人ひとりの希望や意向を把握し、入居してからも日常会話や様子、家族の意見などから、継続的に入居者の意向を把握する取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりから、これまでの生活や本人や家族の思い、関係者の意見を何うとともに、毎月の職員会議で介護計画の評価、検討が行われ、計画書は家族の同意を得た上で交付されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度は利用者や家族の意向を確認した上で、介護計画の遂行状況、効果などが職員会議で評価され、評価に基づいた計画が作成されている。また、3か月に一度は計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出の希望に柔軟に対応するなど、事業所の多機能性を活かした支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族等が希望する医療機関を受診出来るようにすることを基本とし、協力医療機関以外の受診も家族対応が困難であれば受診の支援が行われている。診察結果についてはホームと家族との相互の連絡、相談が適切になされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応は介護計画書作成時などに個別に本人や家族に確認しているが、ホームとしての方針と重度化に伴う意思確認書は作成されていない。	○	重度化や終末期に向けた利用者や家族への段階的な説明と、対応方針の共有を図るための「隠居の家」としての方針、意思確認書の作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーに配慮した言葉遣いや個人情報の利用や保管について、ホームとしての取り決めがあり、職員に周知徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床、入浴、食事、就寝等が個々の生活のペースや体調に合わせて行えるような対応がなされている。また、入居者との会話からその日の過ごし方の希望を把握するように努めている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は実調時の嗜好調査等や入居者の希望にも配慮されており、調理の手伝いや後片付けは入居者と職員が行っている。しかし、職員と入居者が一緒に食事するスペースがなく、職員は時間をずらして食事を摂らなければならないため、同じ食卓で同じものを食べるできない。	○	ホームの食堂が狭く入居者と職員と一緒に食事をする場所が確保できないため、ホームでも増築を検討しているが、なかなか実現できていない状況である。増築もしくは家具や配置の工夫によって、同じテーブルを囲んで同じ食事を一緒に摂れるように取り組んでいくことが求められる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活習慣や希望に合わせた入浴が毎日できるように支援がなされている。入浴を拒む方には入居者の様子やタイミングに合わせて声がけ、入浴支援を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や家事、お茶のみやドライブなど、入居者一人ひとりが楽しみや役割を持ちながら、生活する支援がなされている。また、体操やレクリエーション、誕生会などの行事も行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	ドライブや散歩のほか、季節の良い時に昼食を持って公園へ散歩したり、入居者の希望に沿って外食をしたりと、日常的な外出を楽しむための支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	近隣の方々に連絡してもらえるような関係づくりに努め、日中玄関の鍵は掛けないようにしているが、建物の構造上、入居者の外出が把握しづらい状況であるため、玄関を開けている時はすのこが立てられている。	○	入居者の外出傾向を把握しての対応や玄関に鈴をつける等して、すのこや鍵に頼らない方法で利用者の安全面と心理面の両方について配慮、検討していくことが求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	消防設備の点検は行なわれているが、災害対策のマニュアルが作成されておらず、避難訓練は予定されていたものの、入居者の体調不良もあり実施されていない。また、非常用食料等の準備がなされていない。	○	地域住民の方の参加協力を得ながらの夜間想定も含めた年2回の避難訓練の実施や、非常用食料等の準備が求められる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量のチェック表をもとに一人ひとりの状態に応じた栄養や水分摂取の把握支援、毎月の体重チェック行われているが、栄養の専門的な観点からの定期的な指導や助言を受ける取り組みがなされていない。	○	石巻市の栄養士指導を受けたこともあるが、栄養の専門的な観点からの栄養士や保健師等の指導や助言を1～3ヶ月毎に受ける取り組みが求められる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花や入居者の作品が展示され、明るさやテレビの音量、温度の調節が適切に行われている。また、時計や暦も見やすい場所に設置されており、臭気や空気のおどきも感じられず、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのもの、思い出の写真等を持ってきてもらうように家族への働きかけがなされ、利用者一人ひとりが居心地よく安心して生活できる居室づくりの支援がなされている。		